

生ごみの減量・再資源化施策に関する市民説明会 概要
【上田西部地域】

1 開催概要

開催日時		令和 6 年 1 0 月 2 4 （木） 18:30～19:55
開催場所		西部公民館 大ホール
出席者	市民	1 4 名
	行政（市職員）	環境部長、ごみ減量企画室職員 4 名 資源循環型施設建設関連事業課職員 1 名
	報道関係	1 社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	計画	・人口減少社会のため、自然とごみの量も減っていくが、それでも多額の費用をかけて箱モノを建設する意味があるのか。人口減少に伴い、将来世代の費用負担は更に増えていく。 ・上田市のごみ排出量は全国的にも少ないが、更に市民に負担をかけて減らすことが市民幸福度に繋がるとは思わない。	人口減少も加味したうえで、新たな資源循環型施設の規模を算出しているが、144t/日とするためには人口減少分を除いても更に約2千トンの減量が必要な状況である。資源循環型施設周辺地域の皆さまだけが負担を負うのではなく、市民全員でごみを減らすために必要な事業と考えている。
2		ごみ減量の手段は、生ごみ処理機の補助金の増額や紙・布類の減量など様々考えられるが、あらゆる手段の中で堆肥化施設建設が最も有効だと判断した根拠を示してほしい。	生ごみ処理機を無料配布した場合の試算を行ったが、処理機は寿命があり、施設建設より高額になる試算結果となった。
3	事業系生ごみ	事業系も生ごみが多いと推測されるが、事業系を受け入れない理由は何か。	既に事業系の生ごみを堆肥化している民間事業者が市内にあるため、事業系の生ごみは対象外としている。

4	建設地	建設予定地は梔子ワイナリーの近くであるが、梔子ワイナリーはアジア1位にも選出された市を代表する観光名所である。悪臭の恐れがある堆肥化施設をこの地に建設するのはどうなのか。	臭気を出さないことが最重要と考えており、市が設定する公害防止基準値を超過しないような管理をしてまいりたい。他自治体の堆肥化施設も見学したが、建屋の外では臭わない施設もあるため、同様な対策をしてまいりたい。
5	コスト	・施設建設費、維持管理費はいくらか。	議会等では、施設建設費 16 億円、年間維持管理費 6,500 万円と回答しているが、2 年前の見積りを基に算出した金額であるため、現在再精査を行っている。
6	施設寿命	施設の耐用年数は何年を想定しているか。	15～20 年後を目安に設備の更新や修繕を行い、35 年程度を想定している。
7	環境影響	環境影響評価（環境アセスメント）は実施しないのか。 また、公表はしないのか。	環境影響評価とは異なるが、生活環境影響調査（ミニアセス）を令和 4 年度に実施し、対策を行うことで環境への影響を回避できる結果となっている。 公表については、過去の市民説明会で説明を行ったが、ホームページでも公開する。
8	生ごみ収集	生ごみは臭いや虫が発生しやすいため、冷蔵庫で冷やしたり、新聞紙で包んだり苦労して出している。生ごみをそのまま袋に入れば集積所がカラスに荒らされて大変ではないか。	他市町村では、生ごみ袋をまとめて入れる集積袋や蓋付きバケツなどによりカラスや臭気の対策をしているため、同様な対策を検討してまいりたい。
9	堆肥	堆肥はどのように活用するのか。	最初は地元の皆さまに無償で配布し、堆肥の有効性を検証していただく計画で、効果が認められれば将来的には販売を目指してまいりたい。